

株式会社ユニテック様の場合

計装業務に毎日欠かせない存在 さらなる進化に期待



栃木県那須塩原市にある株式会社ユニテックは、私達の生活に欠かせない重要な環境インフラである空調設備や上下水道プラントの計装業務をはじめとして、電気設備工事、空調設備、空調自動制御設備のメンテナンスなどを中心に事業を展開しています。

最近では、節電・省エネルギー対策が大きな社会的課題となってきたことから、特に電力負荷の高い空調設備の効率的な運用が求められるようになり、その対策として同社の技術力は高く評価されています。

そんな会社では、マックスのチューブマーカ「レタツイン」を20数年前から利用し始め、新機種への代替わりを繰り返しながら愛用してくださっているそうです。そこで技術部の責任者であり、ご自身も長年レタツインをお使いになられてきた前田昭仁部長に、使い勝手や使用するメリットについて、お話を伺いました。

かなり以前からレタツインをご利用いただいているそうですね。



前田部長 はい、私が入社した当時LM-320TXだったと思うのですが、すでに古い機種を使っていたのを覚えています。それ以来、買い替えたり、買い増したりして、現在は10台ほどを使用しています。

使用頻度はどのくらいですか。

前田部長 計装とメンテナンスの際に使うのですが、現場では欠かせない戦力で毎日必ず使います。1回に少なくとも20～30個、多ければ500個ぐらいマークチューブを作りますね。ただ、古い機種と新しい機種では印字スピードが違うので1分間にできる数量で10個、20個差が出ます。新しい機種ほど効率よく印字できるので、作業者に人気があり、手放さない作業者もいるくらいです。

レタツインが欠かせない理由とはなんですか。

前田部長 私達の仕事はレタツインがないと絶対にできません。ケーブルの両端に距離があるので間違わずに接続することはまず不可能です。かなり昔は手書きだったり、硬めのプラスチックのチップのようなもので1個1個挟んだりしていたらしく、現場でたまにそういうものを見つけると「わー、これは大変だったろう」とびっくりします。今では考えられませんね。

チューブをセットしておけば自動で印字できるので、いちいち仕事の手を止めて作業する必要がなく、他の作業をしている間に

出力が終わっているのも便利です。現場の作業効率が向上しました。

パソコンと連動して使用することもあるのですか？

前田部長 基本的には現場でキー入力して使うことが多いのですが、大量に印字する必要がある時は事務所に戻ってからパソコンで処理します。エクセルで作った線番データをPCエディタに入れて転送するだけなのでとても簡単です。規模が大きいとひとつの現場で数千や1万といったマークチューブが必要になるので、そうした場合にはパソコンとの連携の良さが効果を発揮しますね。また、仕上がりがイメージを画面で見ながら作成できるので、失敗が防げ無駄がなくなりました。



その他、お役に立った機能はありますか？

前田部長 電源が確保できない現場も多いので、充電電池（エネルギー）で使用できるのは便利です。現場で電源を気にせず使用できるので助かっています。

マックスの「ピーポップ」も使用されているようですね？

前田部長 ピーポップも行先ラベルやPLラベルを作成するのに昔から使っています。今も現場の事務所に持って行って使っていますよ。レタツインは、どんどん機能が増えて便利になっているので、今後も進化に期待しつつレタツインを使い続けていきたいと思っています。

マックス チューブマーカ

LETATWIN

LM-550W2

現場で活躍！レタツインの実力！

レタツインの詳しい情報は
こちら

導入先

株式会社ユニテック

所在地：栃木県那須塩原市 公式HP：<https://www.e-unitech.net/index.html>